

平成24年度在宅医療連携拠点事業 厚生労働省報告会



連携を支える 「い・き・か・た」 プロジェクト

平成25年 3月 24日

玉名郡市医師会
玉名地域保健医療センター



一般社団法人玉名郡市医師会立

玉名地域保健医療センター

私たち医療センターは、地域医療の発展に貢献していきます。

玉名郡市のご紹介



人口:約11万人
高齢化率:約36%~26%
要介護認定率:20%~25%
※日本全体の10年先を走っています?



- ☆ 圏域内でも在宅医療を巡る環境に大きな違いがある。
- ☆ 圏域でも診療所数や施設の数に隔たりがあり、住民も生活圏域が違う
- ☆ 訪問診療や訪問看護は他地域と比べ充実している

拠点事業から目指すものとは！？

玉名における拠点事業の目指すものとは！？

誰もが参加可能な在宅医療

**双方向・参加型の「場」を
通じた人材の育成**

継続できる拠点活動

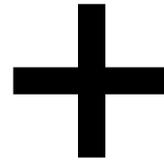
目標に向かって必要なこととは？

顔が見える関係

顔がわかる
関係

顔の向こう側が
見える関係

信頼できる関係



学び合える関係

共感し合える関係

連携を支える関係

い

言っていていい

き

聞いていい

か

かたっていていい

(九州弁で仲間に入るという意)

た

玉名の連携



連携を支える



言っている

・Wish Poem

・医師との
コミュニケーション講座

・たまな在宅ネットワーク

自分の思い「在宅医療・療養」はこうあって欲しい (Wish Poem)



在宅医療のしくみ

- ・ 24時間
- ・ 緊急時
- ・ リハビリ
- ・ 薬局
- ・ 歯科
- ・ 病院 (微細)
- ・ 終末期の把握
- ・ 栄養
- ・ 疼痛緩和



在宅医療のしくみを充実
100% 24時間

患者の思いを共有

連携



患者、家族の思いを共有

- ・ 本人の意思と尊重
- ・ 相談窓口
- ・ 家族の不安 ← 家族の支援
- ・ 安心して暮らす取組み
- ・ インフォーマルな支援
- ・ 地域コミュの取組み
- ・ 看取り

介護サービス

- ・ 移送・搬送
- ・ 看取りができる介護施設
- ・ 予防サービス



制度

- ・ 保険のしほり
- ・ 看取り配置
- ・ 利用者にとってわかりにくい
- ・ 見直し
- ・ 書類が多い
- ・ インフォーマルサービスの活用



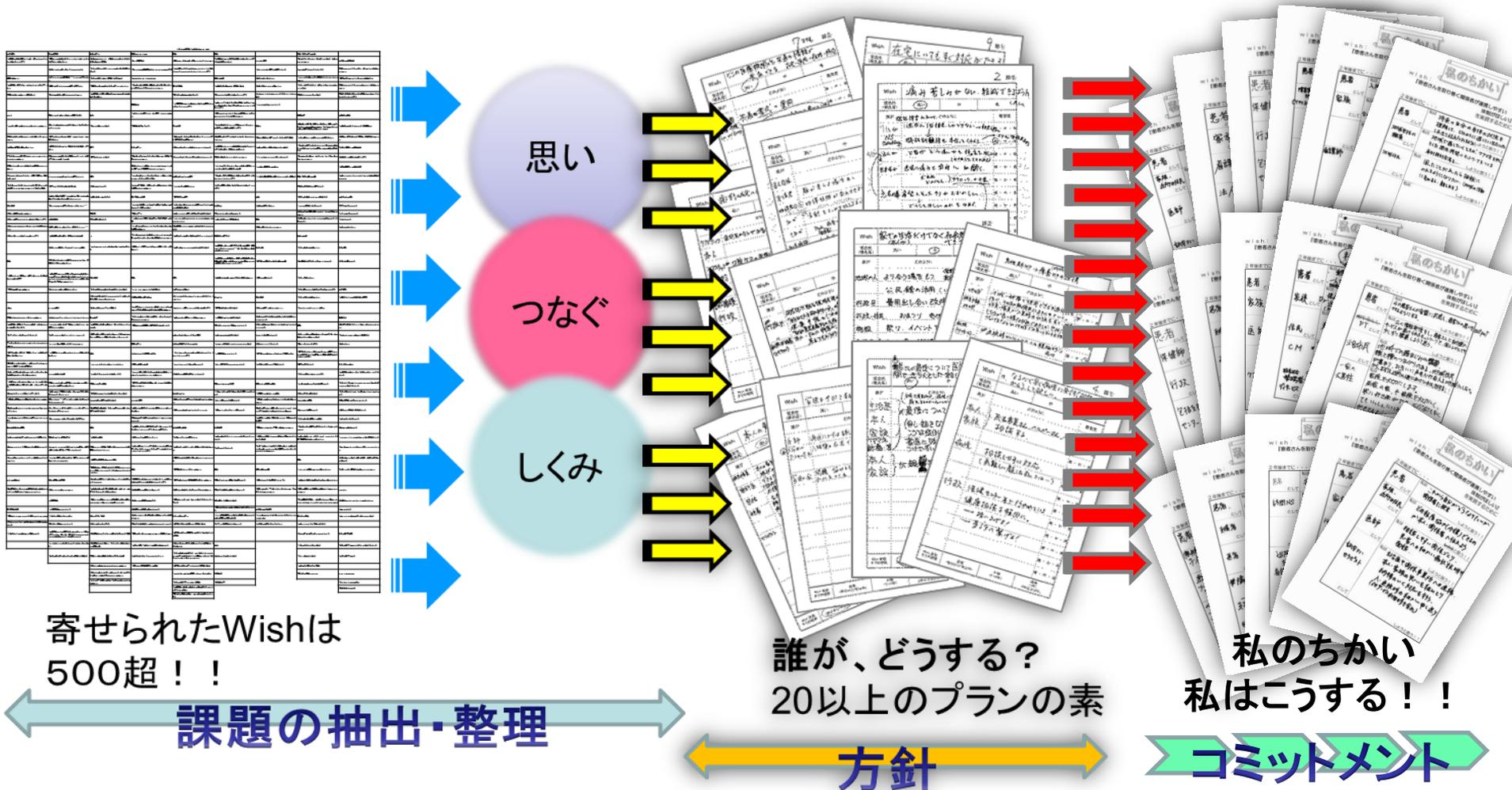
- ・ 高揚感は得られたが、
「現場」につながらない・・・

「Wish」を「現場」に繋げるために・・・

「たまな在宅医療・療養を考えるWish Poem」

《参加者》 医師・歯科医師・薬剤師・訪問看護・中核病院連携室・MSW・ケアマネ
セラピスト・施設関係・障害関係・管理栄養士・救急救命士・行政 他

60名超が毎回参加！！



医師とのコミュニケーション講座

なぜあの**医者**は
話を聞いてくれないのか？

医師とのコミュニケーション講座



Produced by
Team玉東



「言っていない」関係をつくるための
医師とのコミュニケーション講座

なぜ先生が怒り出すの？
先生は難しい？



10月16日
By チーム玉東

連携を支える関係



聞いていい

- ・医師へのアンケート調査
- ・様々なテーマに応じて
聞きあえる学びの「場」
- ・たまな在宅ネットワーク

・一方通行のプログラム

満足感は得られても

「現場」には

つながらないかもしれない

「講演会・研修会・集会」は
いつも双方向で参加型

双方向・参加型の「場」

6月8日
第2回医療と介護の
連携研修会



4月16日
多職種参加の
拠点事業意見交換会



多職種協働の実践
チーム玉東
(デスカンファ運営委員)

7月12日
薬剤師・介護支援専
門員 合同研修会



7月31日
9月16日
たまな在宅医療
連携協議会



連携を支える関係

か

かたっていい（九州弁で仲間に入るという意）

- ・たまな在宅ネットワーク
- ・NPOや各種団体との協働
- ・市民公開講座や出前講座

誰もがかたって(仲間になって)いい

連携を支える関係

か かたっていい

(九州弁で仲間に入るといふ意)



たまな
在宅ネットワーク
定例カンファ
毎月第1月曜



たまな在宅ネットワークの特徴1

★ **強化型在支診・在支病（ネットワーク型）**

★ **自主的な組織である**

★ **在宅多職種ネットワーク**

在支診・在支病のネットワークにとどまらない

医師・訪問看護・病院看護・PT・OT・ST・訪問薬剤師

病院薬剤師・MSW・ケアマネージャー・介護福祉士

ホームヘルパー・社会福祉士

（今後は歯科医師・歯科衛生士・管理栄養士も）

★ **参加の敷居を低くしている
（誰でも参加できる）**

たまな在宅ネットワークの特徴2

- ★ **学び合う(聞きあう・言い合う)「場」でもある**
ケースカンファレンスの他に、勉強会も。
- ★ **飲みニュケーション有り**
月例カンファレンスのあとは「かわせみ」へ
- ★ **ローテクでローコストIT化**
患者情報の共有化はローテクな方法で
(既存の書類をFAXしてもらい、入力の二度手間
が不要。高いITリテラシーは必要ない)

多職種共通テーマ、「食支援」での市民公開講座

みんなで取り組む『食支援』
～在宅における医療・介護・福祉のコラボレーション～

参加無料

平成25年 3/16(土)
会場 五名市民会館 大ホール

第一部 みんなで取り組む『食支援』
～在宅における医療・介護・福祉のコラボレーション～

講演① 口から食べ続けるために在宅歯科ができること
講師 太田 博見 先生

講演② 『地域栄養サポート自由が丘』の活動を通じた在宅栄養サポート
講師 木下 三和子 先生

第三部 地域で取り組む『食支援』～パネルディスカッション～
司会進行 吉田 恵理 さん

お問い合わせ先
〒400-0001 山梨県甲斐郡五名町1-1-1 五名市民会館 大ホール



3月16日

市民・関係者240名以上の参加
市民参加型の多職種連携の「場」

NPO法人 食事ケアサ ポーターズとの協働 による食支援「訪問教室」

- ★11月26日 (GHおかもと)
- ★12月14日 (老健 樹心台)
- ★1月21日 (GHおかもと第2回)
- ★2月26日 (玉名市社会福祉協議会)
- ★3月11・12日 (GHはる)

・介護職員126名への講義



地域(公民館等) での出前講座



- テーマ
「病院の上手なかかり方」
「病院に行く前に知っておきたいコンナコト」
- ★8月31日 (DSゆうき、地域交流会)
 - ★11月28日 (糠峰団地公民館)
 - ★1月25日 (上迫間公民館)
 - ★2月15日 (榎原公民館)
 - ★2月26日 (雲雀丘公民館)
 - ★3月14日 (箱谷公民館)
 - ★3月15日 (明神尾公民館)
 - ★3月18日 (島公民館)

・地域住民116名との対話

こんな正の循環が生まれます！

在宅医療のシンクタンクとして

「い・き・か・た」
という関係の場



たまな
在宅医療
連携協議会

いきててよかった
住んでいてよかった
たまなの実現

住民
行政
団体

発信
・
啓発

アクション

在宅医療の
「現場」充実

ボツ企画？

ケアマネタイム・共通様式？

かかりつけ医参加の
退院前カンファの見学

聞き書きボランティア

・あると便利？

(マップ・情報共有シートなど)

でも

内容と活用が実用的か
と問われると・・・

「現場」で使ってもらえない

医師へのアンケート調査につながりました

設問の回答は、該当される番号

Q I 在宅医療・

1. 先生のご所属の状況をお伺いします
 1. 診療所医師
 2. 病院勤務医師
2. 患者さんがどのような場合に在宅で
(複数回答可)
 1. 病状が不安定
 2. 痛みが強い
 3. 死期が近い
 4. 独り暮らし
 5. 介護力がない(老々介護)
 6. 経口摂取ができない
 7. 認知症がある
 8. 人工呼吸器などの高度医療
 9. その他 (

Q II、訪問

1. 訪問診療や往診を行われて
 1. 行っている
 2. 往診のみ行っている
 3. 過去に行っていた
 4. 行っていない
 5. 行いたいと思う
 6. 今後考えている

※①:「患者の求めに応じた訪問による診療

医師への在宅医療等へのアンケート
調査項目

2. 訪問診療や (上位3位)

順位

1. (
2. (
3. (
4. (
5. (
6. (

3. 訪問診

- 1、
- 2、
- 3、
- 4、
- 5、
- 6、
- 7、

医師への在宅医療等へのアンケート
調査項目

2. 訪問診療や

2. 訪問看護ステーションを利用しづらいと思われる理由をお選び下さい (複数回答可)

1. 訪問看護ステーションの業務内容が判りにくい
2. 訪問看護指示書作成や保険請求が判りにくい
3. 外家の診療を受けているので必要ないと思う
4. 訪問診療していないと利用できないと思う
5. ヘルパーの訪問看護で十分であると思う
6. 院内・外家の訪問看護で十分であると思う
7. 訪問看護ステーションとのコミュニケーションがとりにくいと思う
8. その他 (

3. 誰からの提案・依頼で訪問看護ステーションを始めることが多いと思われますか? (上位3位まで数字で1、2、3とご回答ください)

順位

1. () ご自身(医師)からの提案
2. () 本人・家族
3. () 訪問看護ステーション
4. () ケアマネジャー
5. () 入院先の病院(連携室・入院先主治医 等)
6. () その他

4. 五名都市9か所の訪問看護ステーションすべてが24時間営業していることをご存知ですか?

1. 知っている
2. 知らない

5. 訪問看護ステーションを利用すると、どのような効果があると思われますか? (複数回答可)

1. 医師が急な対応に応じることが少なくなると思う
2. 直接訪問に向かず指示だけで済むこともあると思う
3. 患者の状態や家族の変化がよく把握できると思う
4. 業の管理がうまくいくと思う
5. 患者・家族が安心すると思う
6. 治療効果があがると思う(褥瘡治療や感染症治療など)
7. 患者・家族が望む療養・看取りができると思う
8. その他 (

多職種による
55時間以上の
話し合いを経て
できた設問は
**在宅医療に
関する
医師の「本音」**を
聞き出す内容と
なりました！！

現在、
集計・分析中

これからも拠点活動の継続には

「いきかた」を実践するため

拠点の範囲は
「医師会単位」

顔が見える範囲は
そんなに広くはできない！

多くの費用はかからないが

連携のコーディネーター
は必要

地域の「連携室」が必要

* どこが最適化は地域に応じて！

私のちかい

wish:

『患者さんを取り巻く関係者が連携しやすい
体制がほしい』
を実現するために

2年後までに・・・

	私は	
として	私は	しようと思う！！
	私は	しようと思う！！
として	私は	しようと思う！！
	私は	
として		しようと思う！！

在宅医療連携拠点活動を
これからも
続けていくことを
誓います！！



連携を支える 玉名のい・き・か・た

ご清聴ありがとうございました



一般社団法人玉名郡市医師会立

玉名地域保健医療センター

私たち医療センターは、地域医療の発展に貢献していきます。